しま地域だより

4月号

サザンクリーンセンター推進協議会

湧水地域の井（カー）

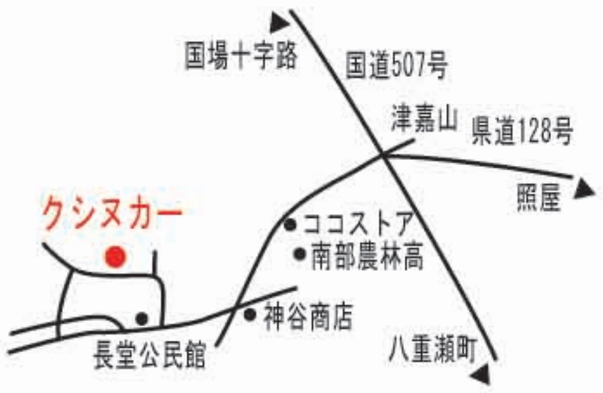
クシヌカー

所在地／豊見城市字長堂244番地

豊見城市長堂集落には、古くからの井泉が多数点在している。そのひとつ「クシヌカー」も地域住民との関わりが深く、現在でも地域の重要な拝所として崇められている。ほぼ当時のまま現存しているといわれており、半円状に構築された重厚な石垣がかつての歴史を物語っている。

集落の後方（クシ）にあることからその名称がつき、地域住民からは別名「ンブガー」とも呼ばれている。以前の同カーは水質がよかったため、地域の大切な水瓶として戦前まで利用されていたという。

長堂出身で現在は同地区自治会長を務める宮城右勲（すけのり）さんに話を聞いた。「元旦の薄暗い早朝のうちから若水を汲みに行くのが幼いころの私の仕事でした。そうしないとお年玉がもらえなかったんです。また、水を汲みに来た人同士のコミュニケーションの場でもあったんですよ。今でも5月と6月ウマチー、年末の御願を行い集落の繁栄と住民の健康を祈願します。沖縄では、命の糧である水が湧く井戸を神が宿る場所として大切にする文化が根づいているんです」と水の恩に感謝の意を話してくれた。



サザン協短期・長期計画を提案

新処理施設H33年稼働を目指す

サザンクリーンセンター推進協議会（会長・古堅國雄与那原町長）の正副会長会議が3月21日、那覇市内で開催された。

会議には、サザン協三役、古堅國雄与那原町長、古謝景春南城市長、神谷信吉八重瀬町議長が出席。サザン協の短期・長期的なスケジュールが確認された後、「サザン協会則の一部改正について」等が話し合われた。協議の内容については、3月31日に行われるサザン協理事会へ提案されることになる。

会議の中で古堅会長は「3月19日に開かれた糸満市議会の全員協議会で、サザン協の方向性・基本計画について説明したところ、全面的な協力が得られた。平成20年6月の糸満市定例議会に於いて、糸満市がサザン協に加わるための規約改正の議会同意が取り付けられるであろう。」と話し、3市3町で取り組むごみ処理施設建設に強い意欲を見せた。

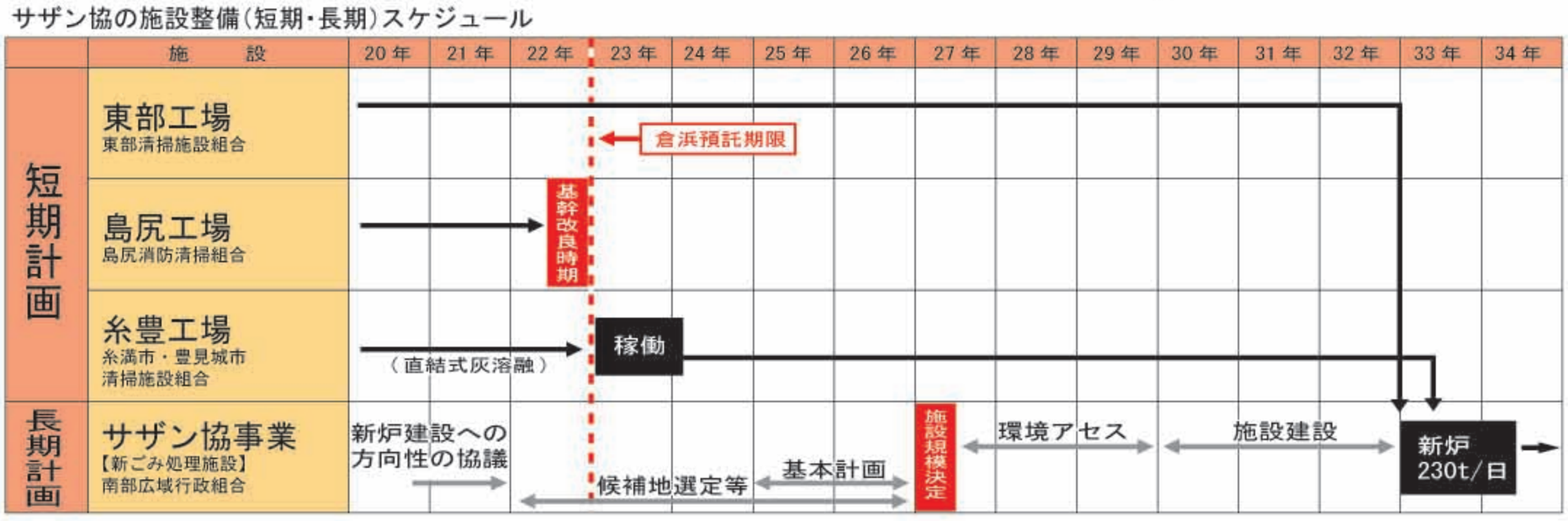
また、サザン協の取り組みについては、「短期的には既存施設を最大限に活用していく」「長期的には糸満市を含めた6市町で推進するサザン協のH33年稼働を目指す新炉建設への完全一元化に向けた議論を深めていく」こと等を確認した。

さらに、サザン協会則の一部改正については、新たに構成市町間の意見調整を図ることを目的とし市町長、議会議長会議を開催することができる項目などが盛り込まれた。これにより、サザン協構成市町間の連携がより深まり、建設に向けさらなる推進が図られることとなる。

その他、役員、理事及び住民代表の日額報酬を一部改正することも確認された。

今後のスケジュール等が確認された

サザン協の施設整備（短期・長期）スケジュール



議会説明会

既存施設を活用し、H30年に新炉建設

サザンクリーンセンター推進協議会は、去る3月18日に糸満市議会議員、25日に豊見城市議会議員に対し説明会を開催した。

事務局から平成19年度サザン協の動きなどについて説明があり、その後質疑応答が行われた。主な質疑、意見は次の通り。

糸満市議会説明会

Q 糸満市を含めた3市3町の枠組みでスタートラインに立てることは議会としても大変喜んでいる。共同歩調をより強固なものにするためにも、まずは6月定例市議会にて規約改正を執り行いたいと考えている。

A 西平糸満市長からは「6月の議会で規約改正を提案したい。」とあった。議会の総意を確認することが出来て大変心強い。

糸満市議会議員に説明する古堅國雄与那原町長

豊見城市議会説明会

Q サザン協の平成20度予算に疑問がある。細かい内訳が無く中身が不透明である。積算基礎は何か。財政負担を考慮し、減額出来る部分を努力して欲しい。

A 糸満市が加わることによって事業計画の変更、負担金の額も変動してくる。その部分も考量し明示できる資料を作成したい。いずれにしても、3月31日の事会決定後に再度説明していく予定である。

豊見城市議会議員に説明するサザン協の玉寄局長

シリーズ

ごみ問題に向けた与那原町の取り組み

南部地域のごみ処理施設の建設に取り組んでいるサザンクリーンセンター推進協議会の構成市町（与那原町、八重瀬町、南城市、豊見城市、西原町）の第一線でがんばっている担当者に、それぞれの地域の取り組みについて聞く。

前号の西原町に続いて、与那原町まちづくり課の上原丈二課長に、「与那原町のごみ減量に向けた取り組み」「これからの課題と展望」「サザン協へ期待すること」の三点を中心に聞いた。

与那原町まちづくり課の上原丈二課長（左）

ごみ減量化に向けて

与那原町では、平成19年3月に策定した「与那原町一般廃棄物処理基本計画」に基づいて計画的なごみ処理に取り組んでいるところである。

これまで、ごみの分別収集、缶や古紙類の資源化、ごみ袋の有料化などを実施し循環型社会の形成に努めてきた。

具体的には、生ごみ処理器購入費の2分の1補助を行い家庭ごみの減量化に努めるとともに、町の広報よなばるに「おーいかんきょう」の見出しで、ごみ処理についての啓発活動に取り組んでいる。

また、廃油をエコ燃料としてリサイクルしている町出身者経営の企業が隣市にあり、パッカー車及び町所有のトラックに給油をしCO²削減に努めている。今は回収をする体制にはなっていないが、将来的には住民の協力を得て廃油回収までやっていきたいと考えている。

更に、廃木をチップ化して堆肥に活用する企業の進出が計画されているので、町としても期待している。

これからの課題と展望

那覇・南風原クリーンセンターが整備されてある程度ゆとりがある状況で、あえて新たな住民負担を強いる焼却施設が必要なのかどうか、という議論が一部にあるのも事実。

しかし、糸満市・豊見城市清掃施設組合と島尻消防清掃組合の焼却残渣については、倉浜衛生施設組合にお願いして一時保管してもらっている状況を考えると、南部地域での最終処分場の建設はどうしても必要である。何故必要なのかを地域住民に理解してもらわなければならない。

那覇、南風原を含めて「南部は一つ」という広域的な視点に立ち、サザン協を中心に、原点に立ち帰って最終処分場建設に向けて柔軟な議論をする必要があるのではないか。

サザン協へ期待すること

地域住民の中には、ごみ処理について家庭の玄関から分別して出して焼却すればそれで終わり、と思っている人が少なくない。その先には、ごみの種類に応じて、焼却処分、資源ごみのリサイクル、残渣物の処理など多くのコストとエネルギーが必要である。なぜ家庭ごみを減らす努力が必要なのか、具体的で生活に密着した細やかな情報を分かりやすく知らせることが先決である。広報紙である「地域だより」は、そのための紙面作りにもう一工夫必要であると思う。

不法投棄防止を啓発する町広報紙

焼却残渣処理施設

直結型溶融炉の検討を！

豊見城市議の瀬長宏氏は、糸満市議員と同行し、去る2月18日から19日にかけて、ごみ処理施設の県外先進地視察を実施した。最先端のごみ処理施設視察の感想、南部地域のごみ処理問題への取り組みなどについて聞いた。

―視察箇所及び目的について―

今回視察したのは、佐賀県の背振広域クリーンセンター及び長崎県の佐々クリーンセンターの2カ所である。2つの施設は、いずれも一部事務組合が管理しており、ストーカ直結溶融炉を採用している。

視察の意義を語る
瀬長宏市議

「地域だより」等によると、サザン協で議論を重ねた結果、有力な方式は「ガス化溶融施設」であると聞いているが、建設費、ランニングコストのいずれも莫大な経費を必要とし、施設としても色々課題がある。これについては、うるま市具志川の「美ら島環境クリーンセンター」も四苦八苦しているようであり、このシステムの導入には疑問が残る。

―施設の印象と課題―

今回視察したストーカ直結溶融炉は画期的なシステムであると感じた。ガス化溶融施設などに比べるとシステムがシンプルであり、建設費とランニングコストいずれも低く抑えられる上に、故障や事故が殆ど起きない、という現場の説明があった。建設費とランニングコストの低減は、当然、住民の負担軽減につながるだろう。

また、無害化されて産出される溶融スラグは、JIS規格に適合した路盤材として使用され、メタルも再利用される。溶融飛灰は製錬会社で有価金属を回収し非鉄金属の原料となる「山元還元」で資源化される、と聞いた。

当地では、過去に埋め立てられた最終処分場のごみを掘り起こして処理し、その後埋め戻して自然に戻しているので、環境に優しいごみ処理を実践している。

視察の印象をまとめると、最終処分場が不要となるストーカ直結型溶融炉システムが我々が目指している南部地域のごみ処理施設として最も適しているのではないか。

・建設コスト、ランニングコストともに低いこと
・最終処分場が不要であり環境に優しいこと
・故障、事故が殆どないこと

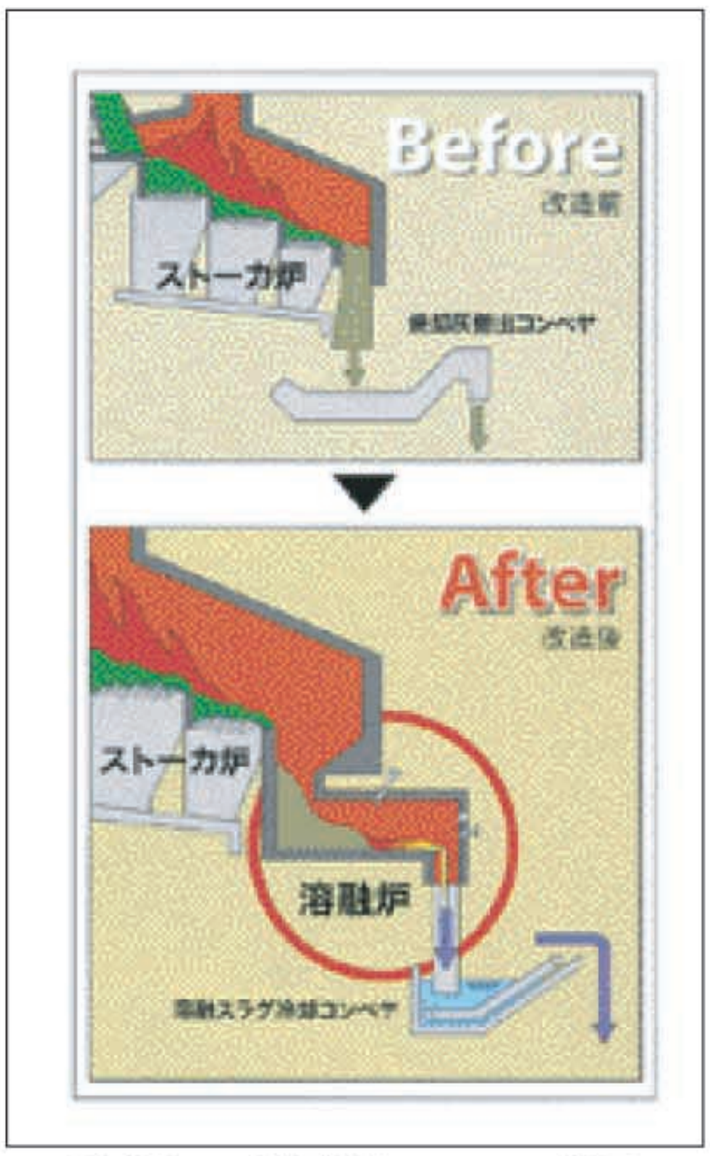
がその理由である。

―サザン協への期待―

以前頓挫したのは、地元の同意を得るために、旧南廃協の理事会、糸満市ともに、短期間に結論を急ぎすぎたことに原因があった。

サザン協としては、先々のことを見据えながら早期に方向性を決め、その後組織を再編して事務連絡協議会へと移行し腰を据えて具体的な取り組みを行うべきである。

「地域だより」は情報源として評価できるので、客観的で正確な情報を地域住民の皆さんへ提供できるようにしていただきたい。



既存施設への直結溶融化システムの改修図

佐賀県の背振広域クリーンセンター

発行者
サザンクリーンセンター
推進協議会会長 古堅國雄
住所
〒901-0401 島尻郡八重瀬町
字東風平965番地
電話
098(998)8857
FAX
098(998)9420
http://sazankyo.net